



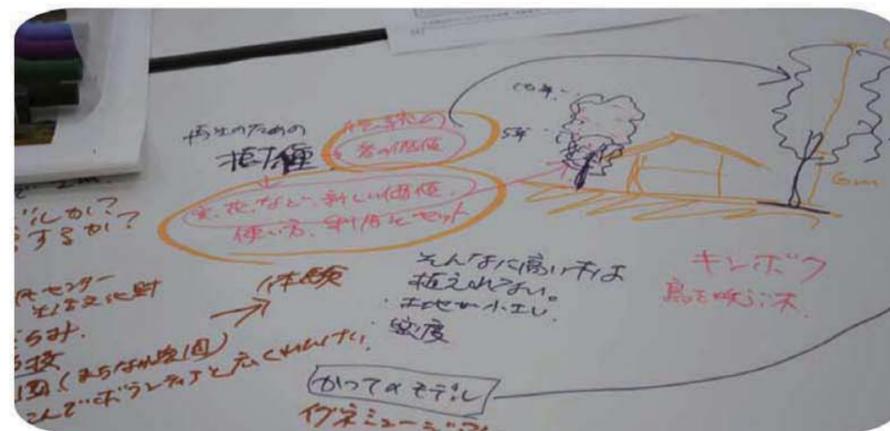
## みんなの居久根ワークショップ報告



### 第二回 居久根再生の関わり方～現在の居久根を参考に～

- 開催日時：平成 26 年 9 月 5 日（金） 18:30～20:30
- 会場：仙台市市民活動サポートセンター 6F セミナーホール
- 参加者：27 名（居久根所有者、復興活動支援者など含む）
- オブザーバー：仙台市百年の杜推進課、河北新報社
- 主催：特定非営利活動法人 都市デザインワークス
- 後援：仙台市
- 助成：宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」

- プログラム
  - ▶前半：居久根のある暮らしを知る
    - ①「居久根のある暮らしとは？」大崎市古川 / 大友さん、太白区柳生 / 阿部さん
    - ②各地区の状況概説 / 調査概説：都市デザインワークス
    - ③モデル地区の概要説明：吉田祐也さん
  - ▶後半：グループワーク  
前半のレクチャーを踏まえ、南蒲生の吉田さん宅をモデルに居久根再生への取り組みやその関わり方などのアイデアを意見交換



**\*吉田さんの想い**

- かつて畑で、現在は使っていない場所があるので、大きな木（シンボルツリー）をつくりたい。  
大きな木を持ってきて植えるのではなく、木が育っていく過程を楽しみたい。
- 今年はその場所にひまわりの種をまいた。夏にひまわりが沢山咲いてきれいだった。
- 庭が隣のお宅の子どもの遊び場になっている。南蒲生地区には公園がないので、子どもたちが遊べる場所を作りたい。大きな木を植えても、子どもたちの野球用のスペースは確保したい。
- 津波によって倒れた木を、チェーンソーアートの材料に使い、家の入り口に飾っている。



A 吉田さん宅の庭。子どもたちが野球をしに訪れる。ひまわり畑になっている場所に、大きな木を植えたい。



B 津波にも耐えた柿の木。鳥が沢山やってくる。



C チェーンソーアートのフクロウ

グループワークにあたっての5つの視点

- 30年後の居久根
- 時間を意識する。すぐ、5年、10年、20年、30年
- 春夏秋冬
- 所有者の視点と、地域・市民の視点
- 植える、育てる、楽しむ、支える



すぐ実践できること



3. 果樹を植える、育てる、食べる

- ・みんなで柿をとって干し柿をつくる
- ・実が食べられる果樹(イチジクや柿)をたくさん植える
- ・お茶の木を植えて、葉を天ぷらにする
- ・畑を活かす。居久根レストランをつくる

30年後までにできること



5. 落ち葉・間伐材を利用する

- ・肥料や燃料として利用する
- 薪をつくり、薪ストーブを使う
- ・落ち葉を迷惑と思う人の意識改革も必要
- 落ち葉で遊ぶ
- 地域の雨どい掃除や落ち葉対策を子ども会のイベントにする

4. (今あるもので) つくる

- ・のこぎりやかなづちを使って町の家具をつくる
- ・とりあえずイスやテーブルなどを置いてみる

2. 生け垣をつくる

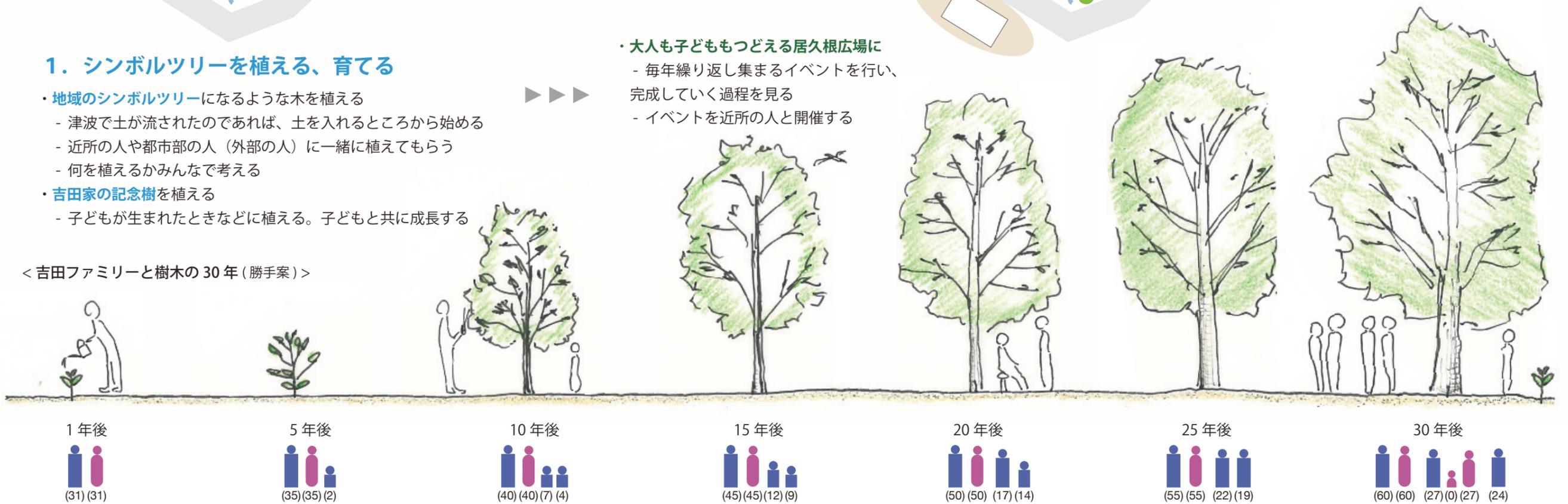
- ・震災でなくなった生け垣をつくる
- 美観を大切にする
- 香りを感じるものはどうか
- 生け垣を桑にしてみんなが実を食べに来るようにする

1. シンボルツリーを植える、育てる

- ・地域のシンボルツリーになるような木を植える
  - 津波で土が流されたのであれば、土を入れるところから始める
  - 近所の人や都市部の人(外部の人)と一緒に植えてもらう
  - 何を植えるかみんなで考える
- ・吉田家の記念樹を植える
  - 子どもが生まれたときなどに植える。子どもと共に成長する

- ・大人も子どももつどえる居久根広場に
  - 毎年繰り返し集まるイベントを行い、完成していく過程を見る
  - イベントを近所の人と開催する

< 吉田ファミリーと樹木の30年(勝手案) >



30年後の「みんなの居久根」って？

### ①「みんなの居久根」の考え方

- ▶みんなの居久根って？…
- 価値をどこに見いだすか  
→再生のための樹種はどのような価値を創出するかで変わる。
  - そもそも居久根は生業、とりわけ農業との関わりが必須では？
  - 都市の居久根と田園の居久根は違うのでは？

### ②実践に向けて大切にしたいこと

- <場のつくりかた・将来像>
- ・つくりすぎないこと
  - ・しっかり用途が決まっていない空間があるといい
  - ・完成させない場
  - ・自然に任せる、手をかけないのが居久根

### ③実践活動のアイデア

- <植える・つくる>
- 樹木
    - ・その土地に合ったものを植える
    - ・すぐ大きくなる木、ゆっくり大きくなる木  
→特徴・特性を捉え、適材適所に
    - ・木の手入れを本格的に学ぶ講座を開く
  - ひろば、公園的な庭をつくる
  - つくらない場所をつくっておく
  - すぐ作れるものを
    - ・のこぎりとかならずちを使って町の家具をつくる
    - ・すぐ、とりあえずイステーブルを置いてみる  
(動かせるもの)

●菜園を市民農園として活用する

#### <従来の役割を再考する・活かす>

- 防風機能 ●適度な高さ
  - ・これからは管理できる高さの居久根をつくる。
  - ⇒密集して植えると、樹木は競争して大きくなろうとする。間隔を空けて植えると、樹木は大きくならず、丸く開いて育つ。
- 農を活かす⇒畑を活かす
  - ・農業後継者の問題もあるが、畑は将来の自分（居久根所有者）のミネラルとして考える。将来的にやればいい。
  - ・畑を自分でやるばかりではなく、土地を貸すことも選択肢の一つ

#### <居久根の新たな価値>

- 「居久根コミュニティ」
  - ・地域のいこいの場とする
  - ・住んでいる人が楽しめる！
  - ・まずは隣近所とのコミュニケーションでは？
- 花や実
  - ・花や実などの新しい価値を使い方、利用とセットで考える。
- 生き物

#### ●子どもたち

- 子どもたち
  - ・自然のもので遊ぶ重要性
  - ・子どもたちに考えさせる
  - ・30年後の子どものために居久根をつくる

#### ●食

- 食
  - ・食べることは、学ぶこと。小さい頃、アケビの食べ方を、身をもって学んだ。
  - ・食べられる木などは、個人の家ならではの
  - ・収穫の秋を実感できる

- 居久根の学校
- 食育の場

- ・子どもが触れる、掘ったりもできる地面をのこす、つくる
- ・市街地の子どものホームステイ先に

- ・居久根で食べる
- ・居久根を食べる
- ・居久根カフェ
- ・食べられる果樹をたくさん植えたい。
- ・干し柿づくり

#### <関わり方>

- 隣近所
  - ・近所の人とのコミュニケーションや理解が必要
  - ・となりとのつながりのイグネ
  - ・何を植えるかをみんなで考える
- 都市部との交流

#### <多様な「関わり」をつくる>

- 交流の機会をつくる
  - ・毎年くり返し集まるイベントを行う
  - ・2～3ヶ月に1回イベントを開催する
  - ・成長していく過程を見る
  - ・近所の人や都市部の人（外部の人）と一緒に植えてもらう
  - ・愛着を持つために名前をつけてもらう

#### <あるものを活かす～マイナスをプラスに>

- 落ち葉や間伐材の利用
  - ・落ち葉で遊ぶ
  - ・間伐材で薪づくりをして燃料とする。

#### ▶モデル植樹のアイデア～はじめの一步～

- ①植える
  - ・実生苗の移植
  - ・生垣づくり
  - ・シンボルツリー
  - ・土づくり(入れ替え等)
- ②つくる
  - ・丸太でイスやベンチづくり
- ③食べる(地元の食材で炊き出し など)
  - ・南蒲生のお米でおにぎり、野菜で鍋 など

## ■参加者 (26名)

■ 男性 ■ 女性 ■ ■ 居久根所有者



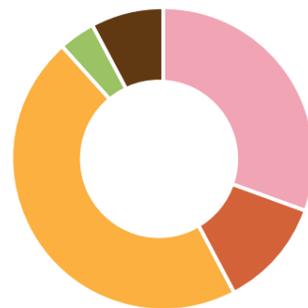
[参加回数 (N=26)]



前回参加者 28名のうち半数の14名が参加！

## ■モデル植樹や次回ワークショップにも参加したいですか？

[参加希望 (N=26)]



- 是非参加したい：8名
- 友達なども誘って参加したい：3名
- なるべく参加したい：12名
- どちらともいえない：1名
- 無回答：2名

## ■自由記述

## &lt;WSの感想&gt;

- ・イメージ出し（夢を語る）時間はとても楽しかった。これだけいろいろな話が出たのだから、ぜひ一つずつでも形になっていくと良いと思う。
- ・グループごとに様々な方向性でアイデアが膨らんで良い。
- ・ぜひチャンスがあればまた関わっていきたい。
- ・詳しい樹木の話など聞けて良かった。
- ・居久根を通して、大人が夢を語る。そこから未来をつくりつなげていく。そんな時間になった。
- ・居久根から何を発信するのか、居久根の企画、楽しみ。
- ・実際のお宅をこれからどうしていくか、というテーマは夢がありつつ、現実的で考えがいがある。

## &lt;印象に残ったこと&gt;

- ・公園に植える樹木と、居住スペースに植える樹木とでは性格が全く異なり、居久根は地域の樹種にあったものと共生することを学んだ。野鳥、花、実を楽しみながら生活するということが居久根の良さ。
- ・農地に囲まれた居久根でも、日陰や落葉が問題となるという話は驚いた。
- ・「暮らしを豊かにする」場所づくりなので、「食べられる」「鳥、蝶がやってくる」「用材、エネルギー」など様々な価値が居久根にはあると再確認できた。
- ・生業の違いによって居久根への対し方が異なるというのはその通りで大変だと思った。

## &lt;実践に向けての具体的なアイデア&gt;

- ・モデル植樹に参加してみたい。が、せっかくの「みんなの居久根」プロジェクトなのでイベント的な植樹だけでなく、2本を渡して、1本は植えて、1本は自宅に持ち帰って育てるとか、少し変わった感じができれば楽しいと思う。
- ・将来周辺の家々に実生で配れるようなナーサリーの役割が担える場所があったら。(nursery:保育園、託児所の意)
- ・隣近所の理解が大事なので、隣の人にも植えてもらう。

## ■自由記述

### <時間軸を考える>

- ・居久根の5年、10年、30年の楽しみ方。未来のつくり方の話は居久根だけでなく多くのものに共通するもので、いろいろ応用できると思った。
- ・樹木が育っていく時間は長いもの。その過程を楽しむアイデアを沢山もらった。
- ・30年後を考えて進めるということがとても大切だと感じました。一回一回のイベントとしての楽しさと、地域に根ざした、人生のスパンでの活動の、二つの面を大切にすると良いと思う。
- ・今の生活スタイルにあった新しい居久根でなければいけないと思う。町内会、自治会など地域に親しみを持たれるような居久根であれば、数十年後であっても大切に残っていくと思う。
- ・居久根の再生と時間の長さを、地域や思いのある人たちとどのように共同作業ができるかだと思います。アイデアは無限にあると思う。
- ・今年、10年、・・・というスパンでどの様なことができるか、というキーワードで、自分はどのくらい樹木が育つのかということ（特に景観として）、ビジュアル的にどう変わっていくかということばかりに目がいきやすいが、「5年、10年と居久根のある暮らしでの楽しみ方」ということを子供たちに伝えていくことでも変わっていくと思う。
- ・実行するには長期間必要なので、それをどう引き継ぐかが一番大変だと思う。
- ・居久根の今後と、農の後は、一緒に考えていかなければいけないなと改めて感じた。

### <南蒲生をモデルに！>

- ・まずは南蒲生でモデル的にやっていたら、それが仙台平野に現在未来の将来像を波及させていけるのではないかと感じた。
- ・居久根は子どもたちが遊べる貴重な場ですが、吉田さんのようにハッキリと「子どもたちが遊べる場にしたい」と言っている（表明している）家はあるそうで実際にはほとんどなさそう。ぜひ、他のところのモデルとなるような場に！！

### <地域との連携を考える>

- ・居久根カフェなど商売につなげる意見は、ボランティア的な考えが私の中でベースにあったので新鮮だった。
- ・居久根の再生を通し、地域の復興やコミュニティづくりのアイデアが沢山出ていてとても興味深かった。
- ・参加者の所属のバランスなのか、皆で、どんな木を植えるか考えながら、村全体で一つの居久根を作りたいという意見が多く驚いた。
- ・居久根をみんなで一緒に企画して、利用していくことは、家のコミュニケーションだけでなく、近所、そして地域をつなげていくことで、非常に楽しみ。
- ・居久根をつくりあげていく→残していくことがとても面白く興味深い。地域の理解を得つつ、地域や周りの多くの人たちが楽しめる居久根づくりに私も関わっていきたい。
- ・楽しい居久根はいい！！夢がある未来。居久根の所有者も近隣の住民も楽しいことを考えると前向きになる。みんなで作る居久根コミュニティが作られるのを期待する。
- ・居久根は個人のお宅のもの。そうでない、共用しての楽しみ方。この2つの考え方とこれから発想を広げられたら楽しい！

### <課題・問題>

- ・歴史的視点、植生、樹木、生物多様性……。楽しみながら継続していければいいですね。居久根は藩政時代、生活に必要な、生活を守るためのもので必要不可欠なものだった。これからは少し変わってゆくと思う。世代が変わっても居久根の話や歴史を後世に伝え残してください。
- ・今仙台で困っているのは、地域の在来樹木がどれかわからなくなっていること。
- ・居久根を守るのか？つくるのか？
- ・地域に合った居久根とは何か。
- ・樹木の重要性、働きに対する理解と普及。特に子供たちに対して。
- ・現実的には居久根は急激に減少している。どうするのか。
- ・居久根を緑の回廊として考えられないか。
- ・居久根とメモリアルをつなぐものとして考えられないか。